

米国学術研究会議 (NRC)、慣性核融合エネルギー研究切捨てに問題提起 (3月7日)

慣性核融合エネルギー (Inertial Fusion Energy) に関し、調査を進めてきた米国アカデミー (National Academies) の米国学術研究会議 (National Research Council : NRC) は、この進捗報告として、「『慣性核融合エネルギーの展望評価』研究に関する中間報告書 (Interim Report-Status of the Study "An Assessment of the Prospects for Inertial Fusion Energy")」を発表した。2013年度大統領予算教書においては、エネルギー省 (Department of Energy) の科学局 (Office of Science) 傘下の核融合科学室 (Office of Fusion Energy Sciences) の予算大幅削減が提案されているが、これに対して本報告書は、磁場核融合と慣性核融合のどちらか一方を勝者と決定し研究対象技術の絞り込みを行うのは時期尚早であると提言し、慣性核融合研究の継続が必要との指摘を行っている。なお、慣性核融合の研究はこれまで50年以上に亘って行われ、磁場核融合の代替として期待されてきたにも関わらず、点火装置の開発が成功していないことから、慣性核融合エネルギー研究に対する連邦支援の縮小が懸念されている。

なお、本報告書は

<http://www.nap.edu/catalog.php?record_id=13371#toc>から閲覧可能。

Science Insider, *It's Too Early to Pick a Winner on Inertial Fusion Energy, Says Study*
<http://news.sciencemag.org/scienceinsider/2012/03/its-too-early-to-pick-a-winner.htm>